



会長退任挨拶

藤川 卓爾(S42)



この度一身上の理由により京機協会会長を辞任いたしました。一身上の理由といいますのは外国の会社への就職で、今月から韓国の Samsung Engineering Co. Ltd. に勤務することになり先週ソウルに赴任いたしました。会長の任期を全うすることができずに申し訳ありません。

京機協会の活動には色々な形があります。文字通りの同窓会で旧交を温めるもの、産学懇話会や異業種交流会のような直接の仕事に関わるものや機械工学・機械工業の発展に寄与するもののほか、ゴルフ同好会や写真同好会など趣味の世界にも広がっています。最近では若手を中心とした活動も活発になってきました。

私は平成17年に設立された九州支部で5年間支部長を勤めました。支部の特徴を出すために家族連れの温泉巡りを始めましたが、最近では離島巡りや近代化産業遺産巡りに発展し、本年4月の長崎での春季大会につながりました。これからもこれらの活動の広がりを通じて今まで京機活動に参加していなかった人達を巻き込んで、より多くの人たちに京大機械系教室で学んでよかったと思っていただきたいと思います。

京機協会の益々の発展をお祈りして退任のご挨拶といたします。

会長代行就任挨拶

2012年7月1日 松久 寛（1970年卒）

7月より会長代行に就任いたしました。

前会長藤川卓爾氏の言葉『同窓会というものは何か、仲良し会でいいのかという議論があります。私は先ずそれでいいと思います。それが始まりでいろいろとつながりの輪が広がって行けばよいと思います。私が京機会に関わるようになりましたのも同じ研究室の仲間とのつながりです。毎日の仕事のつながりと違って直接の利害関係を離れたつながりですが、京機会のおかげで人生がとても豊かになったと確信できます。卒業以来何十年も会っていないくてもすぐに話が通じる同期の横のつながり、職場や研究室の先輩・後輩の縦のつながり、京大機械系教室という同じ学び舎で学んだつながりが、長い人生で一番大切なつながりになると思います。京機会はこのようなつながりの広がりを目指して行きたいと思います。』が同窓会の在り方を語っており、京機会のベースであると思います。



現在の京機会は人数も増え、5支部がある全国組織となりました。さらに学生会や若手会の活躍によって、若い人もたくさん参加しています。また、おもに退職した人たちが、京都イノベーションリソースというNPO法人を設立し、機械工学をベースに社会に貢献しています。このように、京機会は学科の同窓会としては日本一と言えるでしょう。

ところで、京機会には、戦前から大阪で毎月九日に集まる九日会というのがありました。戦後は1952年に再開されましたが、その時の記録を見ると、梅田の阪急8階特別食堂で17-20時に開催され、会費は500円とのことです。当時、若手で世話役をしていた森川龍一（1950年卒）さんの話によると、『毎回20数人の教員や企業人が集まった。若手の月給が6000円の時に、毎月500円は大金であったが、大学の先生や関西財界で活躍されている京機会先輩と親しく話をし、情報と人のネットワークを形成したことが仕事でとても役に立った。』とのことでした。

これからの京機会としては、関西支部の京機カフェや関東支部の同好会のように老若男女だれでも気楽に参加できる楽しい同窓会、学生と先輩が交流できる同窓会、さらには、情報と人脈の宝庫である役に立つ同窓会にしたいと思います。

日本女性は『最高級のワイン』か？ （その1）

成瀬 淳（1968 卒 元日立製作所）

私は四十年の長きに渡り勤めた会社を定年退職してから、波乱に満ちた会社生活を通して経験した様々な出来事を纏めて今後の世の中を担う若い人たちに伝えたいと思うようになった。何人かの知人にこの思いを知らせたところ、幾つかの因縁があり大阪にあるE大学と岡山県のU大学での仕事がまわってきた。U大学では社会人対象のセミナーで月に数回のペースで話をし、また学生諸君への講義も担当する。またE大学では大学監事として理事会に出席する一方、大学での現場、即ち学生諸君と直接対話をする機会も得て、私の退職後の生活は極めて快適である。

私は東京に住んでおり大阪へは新幹線で行くが、岡山へは羽田からの飛行機を利用している。お陰で家から岡山の職場まで二時間半で行けるので時間的には大阪より近いことになる。新幹線を利用する大阪への移動も本を読む時間に使えばそんなに苦では無く、大学で話す内容を整理しながら車窓から富士山を眺めるのはこれまた至幸である。

大阪行きの楽しみには、実はもう一つの要因があることをここで白状することにしよう。彼女は独身、極めつきの才媛である。E大学のある京阪電車の駅から普通電車で二つめの駅近くの三百坪の土地に建てた豪邸に住み、少し前までは愛犬のスージーと暮らしていた。数か月前にスージーが老衰で逝ってからは一人住まいを決め込んでいる。



新幹線から見える富士山

E大学の理事会は午後3時からと決まっており、特に学生との対話のスケジュールが入っていないときは昼前に京都駅に着けば十分間に合うが、彼女を訪問する時は朝早く東京を出て十時過ぎには京都に着くようにしている。そのような時は事前に手紙で都合を聞くのだが、すぐに折り返しで華奢ではあるが深い知性が滲む字で書かれた丁寧な返事がくる。これだけでも楽しみで、受け取った時は嬉しくなってしまうのだ。京都駅の新幹線を降りたところに京洛の風情を込めた弁当が売られているので、最も魅力的な小ぶりのものを買って、近鉄に乗り、丹波橋で京阪に乗り換えて彼女の家へ急ぐ。長屋門の入口で最近設置したという新式のインターフォンを押すと、私の声を聞き分けて「お入りなさい」という声が聞こえ、門の戸が遠隔操作で解錠される。

彼女は何時も素敵な洋服に身を包んで現れる。そして昼食を挟んでの彼女とのくつろいだ会話の内容は実に多岐にわたるのだ。私が哲学者和辻哲郎の本を読み始めたのも、彼女が哲郎の兄、和辻竜太郎の話をしてくれたことがきっかけであった。哲郎は彼の主著書の一つ、『日本精神史研究』の中で「十三世紀初頭に出た曹洞宗開祖の道元が女性差別を含む一切の差別に対して痛撃を加え、世上の価値の差別を撥無することが必要である」と説いた。これを読んで私は、遠い昔日本の高僧が既にダイバーシティについてしっかりした見解を持っていたことは驚愕すべきことだと話したところ、彼女はこのことを知りつくしていて、以前あるグループでこのことを議題として深い議論をしたこともあると説明してくれたのだ。女性差別の問題意識は、戦後になって初めて女性参政権が認められ、また最近の少子化に伴って女性にも働いてもらおうという動きとも相まって、近年になってから始まった傾向だと思いがちである。しかし

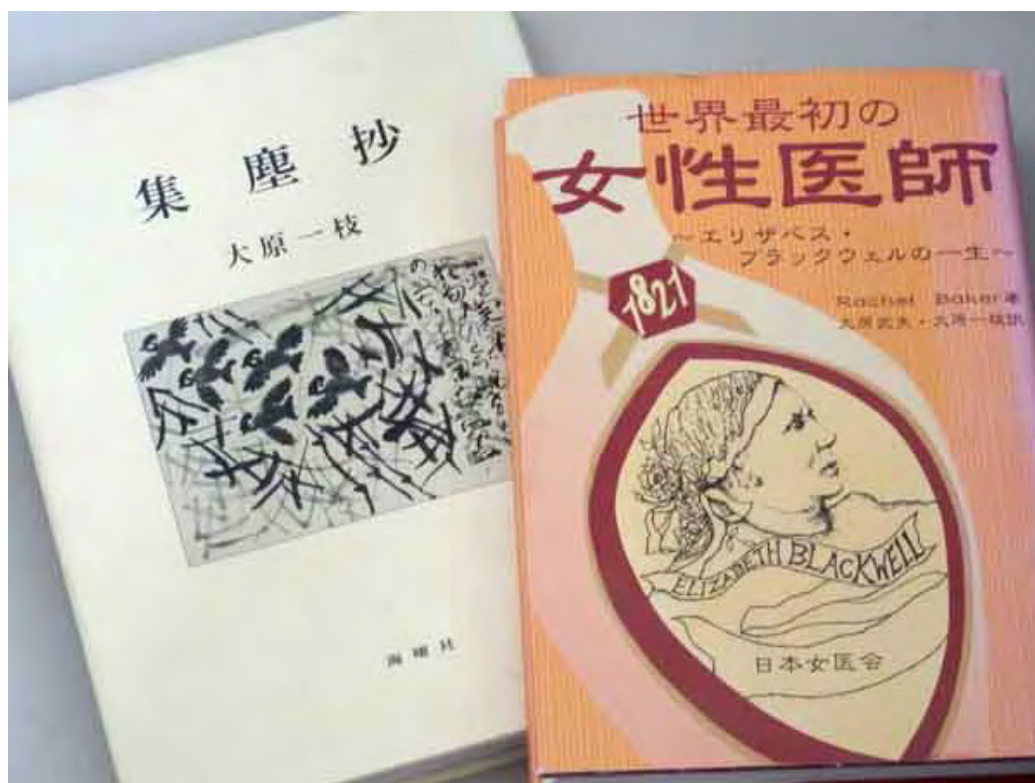


一枝先生宅の長屋門

道元にみるように、深い思索と洞察から必然的に導かれる立場であるということには間違いがないようだ。

話題はこの他にも、女医としてスイスを訪問した時に見聞した診察の予約制や健康保険の制度についてのこと、国際女医大会に出席した時の状況、アメリカの女医の生活について、子供教育での日本の問題点、等々に及び、興味が尽きることはない。特筆すべきなのは、彼女がムーコル症という皮膚病の原因となる真菌を発見したという事例である。その時に彼女が体験した事、実験した事を、単なる知識としてだけではなく、体験そのものを通して医学を志し未知のものに挑む人たちに何かをくみ取ってもらいたいという熱意から多くの論文を執筆し、多くの講義を行ってきたのだった。2002年には学問業績のみならず諸問題の改善活動での先駆的な貢献が高く評価され、世界的にも栄えある「国際女性皮膚科医パイオニア賞」をアメリカ皮膚科女医会から授与されたという事も追記しておく必要があるだろう。

このような話題を通して彼女と対話できる事は何という感激であろうか。昼食が終わり、対話も一段落するころ時計は既に2時を廻るのが常である。そして3時からの理事会に間に合うよう、そそくさとお暇の準備に入ることになる。発つ前に必ず玄関まで送ってくれる彼女に、心からの優しいハグをせざるを得ない気持ちになるのだ。すると彼女は何時も「いやね、この人は米国に住んでいたせいでこんなことを・・・」とお付きの人に言うのだが「あらいいじゃないですか、スキンシップは大切ですよ」と同じてもらえない。



一枝先生著書

彼女の名前は大原一枝といい、大正3年（1914年）生まれの98歳である。亡くなった親父の従姉妹で子供のころ親父と仲の良い友達でもあったという。両親の離婚などがあって苦労して育ったが、優秀だった彼女は大阪女子医学専門学校を出て京都帝国大学医学部皮膚科に勤務、その後関西医科大学教授を歴任した。日本最初の皮膚科の女医教授である。このような才媛を獲得できなかった日本の男も不甲斐ないという事であろう。

会社勤めの時には海外出張も頻繁にあったが、仕事からみの旅行には常にテンションとプレッシャーが伴うものだ。私が退職して時間がとれるようになってから最初に計画したことの一つは妻との海外旅行であった。ニュージーランド、米国、中国、マレーシア等々の旅を楽しんできたが、印象に残ったものの一つは「トルコ11日間の旅」であった。これは私としては初めての海外パック旅行だったが、予想をはるかに超えた楽しいものであった。日本を出てから帰るまで日本人ツアー・コンダクターが付き添ってくれて、その上に現地に着いた後は日本語が堪能なアルペルさんというトルコ人男性ガイドが付いてくれた。最後のイスタンブールでの宿泊はオスマントルコのアブドゥル・アジズの宮殿を改修して造られた超豪華ホテルのチュランパレスで・・・初対面だが楽しい旅の仲間たち・・・本当に豪華な旅行であった。



トルコ カップアドキア

イスタンブールの街を歩いて気がついたことの一つは若い女性たちがスタイルも良く美人ばかりであるという点である。アルペルさんはトルコでは学卒が未だ一般的では無かったころに大学で勉強した博学のナイスガイである。日本びいきの人が多いお国柄で、彼も日本を度々訪れるという。彼の流暢な日本語は日本人の奥さんから学んだものだ。そこで私は愚問を発した、「トルコには魅力的な女性が大勢いるように見受けるが、何故貴方は日本人女性を妻としたのか」と。彼は「その理由は簡単です。日本人女性は高級ワインの様なものなのです。歳を重ねるにつれ益々魅力がでてくると確信しています」と即答してくれたことが今でも深く印象にのこっている。

一枝先生との対話を通してアルペルさんの言葉が重なり私の脳裏に舞い込んでくる。もし今度彼と会う機会があれば伝えてあげよう、「そうだ、君の言ったことは正しい。日本女性は最高級のワインなのだ。確信と自信を以て今後の人生を過ごすが良い」と。

(つづく)

—— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

【要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。 MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。 割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。 宜しくお願い致します。

高知県教育委員会委員長を務めて

(その 3)

昭和 37 年卒 河田耕一

本稿は 2012 年 2 月に京機会中国四国支部総会において講演を行った内容を修正加筆したものである。

7. 社会的な課題

図 4 は全国学力・学習状況調査において、「将来の夢と希望を持っていますか」との質問に対する中学生の回答結果である。約 7 割が肯定的であるが、否定的回答も 3 割ある。高知県全体と全国には差がなく、学力に問題はあっても意識には差がないことがわかるが、詳細に見れば地域差、学校差がある。

山間部の A 町教育長は次の悩みを述べている。

- ・児童生徒が「競争」という社会の厳しい状況に触れる機会が少ない
- ・それを積極的に学習しようという土壌がない
- ・必死にならなくても高等学校には行ける
- ・低学歴保護者に学力への忌避がある
- ・中途半端な豊かさによって、何とかするという町の雰囲気がある

地方高校生の 3 大人気職業は、公務員、看護師、教員であり、ほとんどがサポート系である。そのためのお金を稼ぐ実業の世界が身近に感じられていない。また大学生の就職でも国内指向以前に出身地指向が強い。特に都市部から隔たった出身校が問題である。生徒のみならず、教員でも東京に行ったことがない人がいると言われている。日本全体としてみれば大雑把に半数が田舎とみてよいであろうから、この問題の克服は重要である。

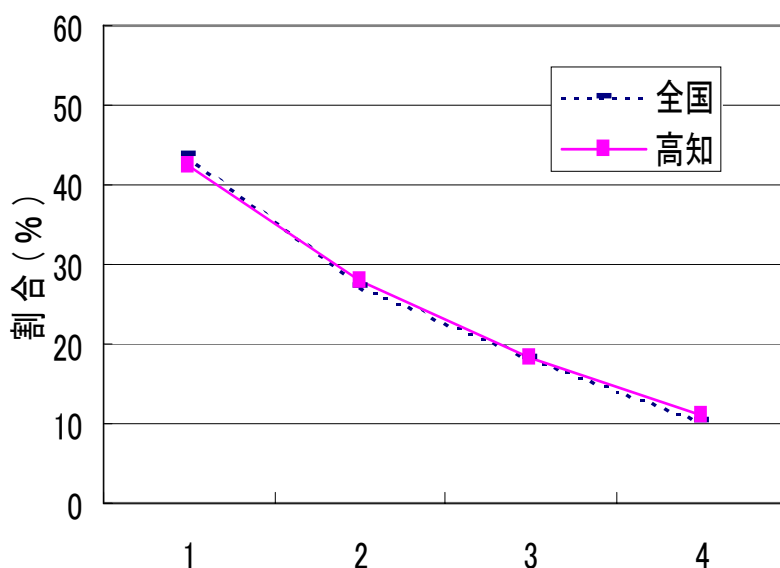


図 4 全国学力・学習状況調査での質問「将来の夢と希望を持っていますか」に対する中学生の回答 (1: 肯定的、4: 否定的) 平成 21 年度

図5は小・中学校生両親に尋ねた「理想の子ども像」の調査結果である。「思いやりのある子」が半数以上となっている。このような設問をされるとまあこのような回答になるではあろうが、疑問は残る。

- ・「思いやり」とは具体的に何なのだろうか？
- ・「思いやりのある子」とは具体的にどのような子どもなのだろうか？
- ・設問自体があいまいな教育意識を反映しているのではないだろうか？
- ・厳しい世に背を向けた、学校は楽園、教師は聖職、子どもは天使、という思想ではないのだろうか？
- ・「ルールを守る子」と言った方が妥当ではないのだろうか？
- ・教育勅語の「思いやり」なのだろうか？「父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ」「博愛衆ニ及ホシ」「一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ」であり、「義勇公」は「ボランティア」と考えれば現代的である。そうであれば日本人の基本思想は変わっていないのだろう

8. 教育制度の再検討

教育界は全国に多数の事業所と従業員を抱えているが、国際競争力に問題が生じていないだろうか。

そのためには、行政と一体になって基本計画、目標管理、人材配置を行う学校組織が必要である。施策としてたとえば次のようなことがある。

- ・校長を補佐する、意欲的な教員を核とする少数集団による運営検討
- ・それを核とする全員経営
- ・行政との相互乗り入れ、自己申告異動など、フレキシブルな人事管理

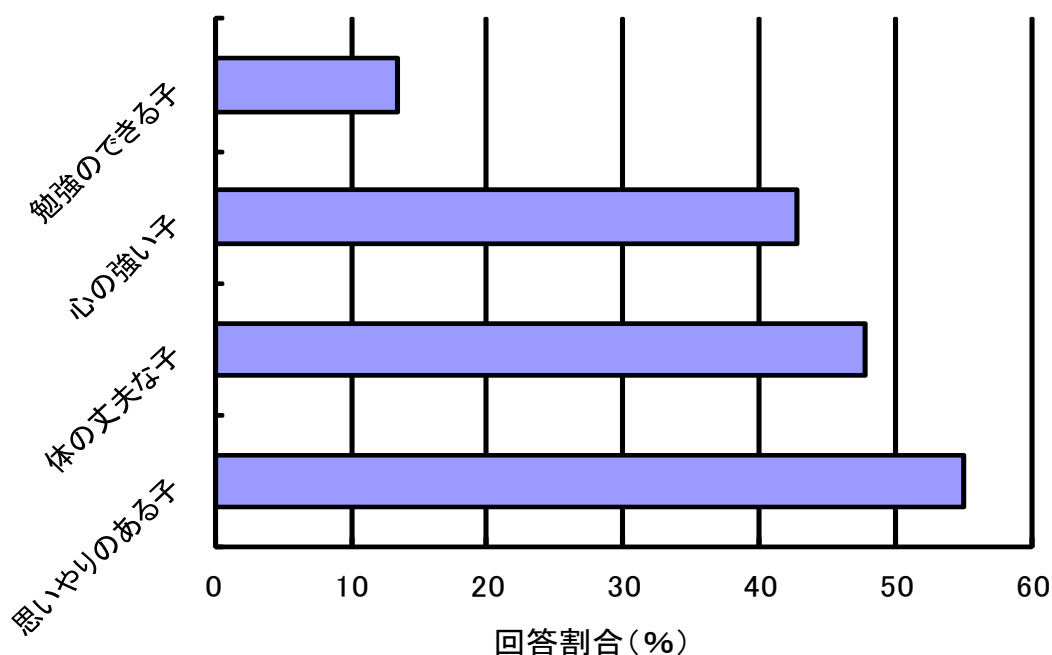


図5 小中学生両親の理想の子ども像

(高知新聞 2011.8.16 、かんぽ生命保険調査、共同通信社配信)

- ・半数程度は社会体験のあることが望ましい
- ・事務職員の業務範囲拡大、たとえば保護者への対応、教員の秘書業務などが必要である

また、教員が狭い範囲の出自ではなく、その採用を広くすることも重要である。

- ・社会経験者など広く採用を行う
- ・教員資格認定試験、特別免許状教員、特別非常勤講師を拡充する
- ・教育学部によらず他学部、ポスドクからも教員を輩出する
- ・通信制大学などによる教員免許取得を奨励する。
- ・採用年齢制限（高知県では39歳）を撤廃する

外部講師によるテンポラリーな授業などは現在も行われているが、常勤で正規の授業を行うことが望ましい。以上は制度としては存在していて、文科省でも推進の方向ではあるが、実行は未だ不十分である。ただし、責任を持った採用、育成指導と評価、不適格者を排除するための任期制などは必要であるとする。

図6は高知県教職員の年齢別構成である。若年層が少ないのは、新卒者に比べ臨時教員出身者が多いことが原因であり、小学校女性教員の多いこともそれに起因している。

高知工科大学では2003年度より教育講師制度を導入しているが、極めてよい結果を生んでいる。教育講師は、教育に情熱と使命感を持つ60歳前後の企業出身者を中心としていて、1年生の初年次教育に始まって、就職まで、学生

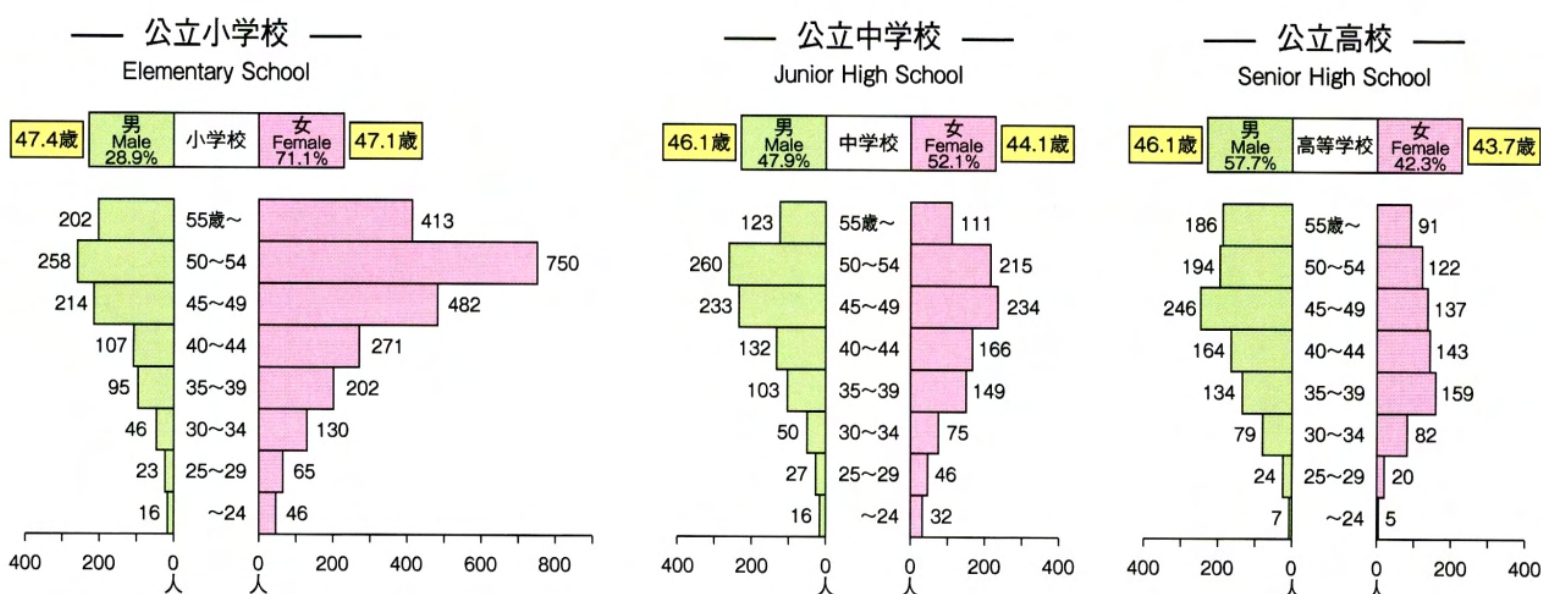


図6 教職員の年齢別構成（平成23年度「高知県の教育」）

の人的側面の育成支援を行っている。学生個人ごとのカルテを作成して情報を共有し、学生の信頼も高い。また一般教員は約半数が企業経験者となっている。

9. 教育改革は高校・大学・産業界から

教育の最大の問題は高校と大学であると考える。進学率がほぼ100%と義務教育化している高校、50%と半数が進学している大学、これらの教育は社会に大きい影響を与えるが、それぞれの進学率が低かった時代のコンセプトを脱していないのではないだろうか。

教育の目的は社会でしっかり活動できることにある。したがって教育の成果は児童、生徒、学生が社会に出た状況で評価できる。社会に出た状況の把握とそこからのフィードバックが必要である。

そのためには情報の公開が第一歩である。従来高知県立高等学校の進路は「主な進学先、就職先」しか公開していなかったが、全面的に公開することになった。コースが複数であればコースごとに区分し、大学では学部も明示する。また、高等学校は中学校、市町村教育委員会からの要望があれば進路状況を伝達することとしている。これによって中学校は適切な進路選択と教育へのフィードバックが可能になる。

一方、高等学校は大学へ進学させることで終わり、その後の状況を把握していない。

大学は全卒業者の進路状況を学部・学科（受験区分）ごとに公開しなくてはならない。また大学から高校へ、その情報提供を行わなくてはならない。これによって社会を見据えた高校の教育、生徒の特性を踏まえた進路選択、進路指導が可能になる。大学は就職予備校ではないが、教育機関の中で社会への責任がもっとも大きい。公開は高いレベルの大学教育とは矛盾しない。高知工科大学では従来から全就職先を公開していて、学部・学科ごとに区分する準備を進めているが、すでに滋賀県立大学ではこのような公開がなされている。

さらに大学は就職させて終わりであり、卒業者の状況が把握されていない。企業と大学間で卒業者についての情報交換が必要である。それによって大学の教育評価が可能になる。

なお産業界としては、実世界に縁遠い生徒・教員・保護者との積極的交流、工場見学、インターンシップ、従業員の教育への参画を増やすなどの行動もある。

10．おわりに

筆者は理系への進学の少なさ、物理履修者の少なさを絶えず訴えてきたが、高等学校において次第に理解されてきた。また学校が教員の集合体ではなく、目的を一にする組織でなければならないことも意識されつつある。さらに自治体においては、高知県を始め、首長が教育に対する積極的な施策を打ち出すケースも増加している。

教育の世界は従来あまりにも閉ざされた世界であり、そのイナーシャは大きい。前向きな関係者が次第に多くなれば、それは大きいうねりとなって日本全体の教育の改革が進むものと期待している。

(おわり)

ここまで来た！日本の燃料電池自動車

(その 8)

昭和39年機械科卒 平 忠明



図25 トヨタFCHV-adv

昨年12月開催された東京モーターショーで、トヨタは最新のFCHV-advを発表した。その際、2015年の市場投入時には1,000万円を下回る価格を予定しているとコメントした。(すなわち、当初に対しコスト低減1/10は達成)

以上、FC-EXP0 2012における、トヨタ自動車の発表について紹介してきた。

ホンダについても、技術的な特徴はかなり異なり、最新の発表ではFCEVと命名しているが、開発スタンスについてはほぼ同じ状況にあると判断しています。

次にホンダの特徴的なところのみを、数点紹介します。なを、日産は目下、EV車開発・販売に経営資源を集中している印象を感じた。

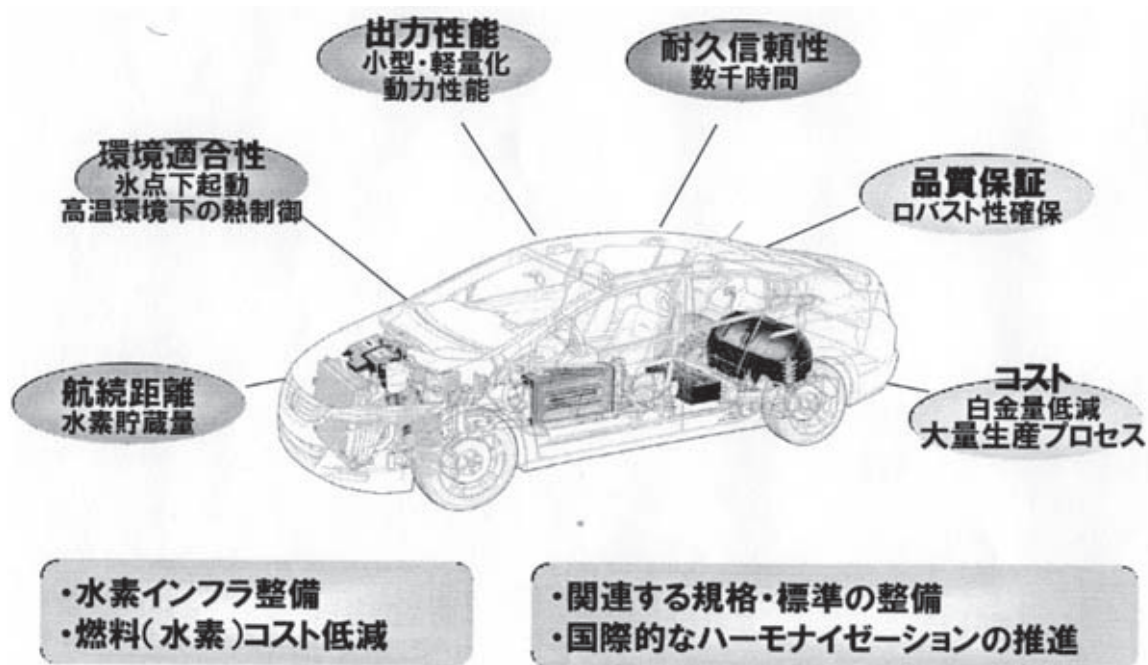


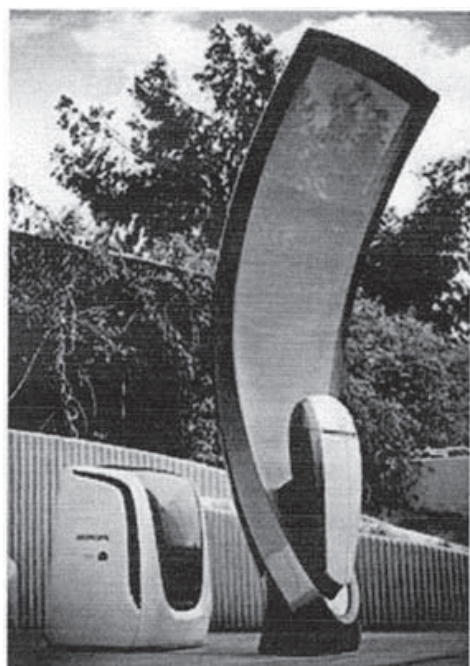
図 2 6 FCEV の普及に向けた課題進捗

自社における開発課題として、電解膜、触媒の白金の使用量低減を、大量生産プロセス改良と抱合せで達成することが、コスト低減に最重要であるとの認識。また、車体の中心部に搭載されているスタックは、他社と異なり縦型であり、ガス・水の最適移動に独自の配慮がされているのが注目される。



図 2 7 FCEV 普及ロードマップ

経産省の2015年普及開始段階からスタートし、2025年の商用期には、ガソリン車と同等コストを目標としているのが、注目される。



水素製造	水素流量	0.7 Nm ³ /h (0.5kg/夜間 8hr)
	充填圧力	最大 35 MPa (約 5000 psi)
	水素純度	> 99.99%
構成要素	太陽電池	CIGS薄膜太陽電池 6 kWシステム (約 53 m ²)
	電解ユニット	差圧式高圧水電解システム
ユーティリティ	電源	240 VAC
	供給水	水道水
ユニットサイズ		約 0.33 m ³ (約 12 cf)

図 2 8 ソーラー水素ステーション (SHS 2) の主要諸元

これは、水素充填所の究極の理想形を追求したもので、ソーラー発電：6 KW により水道水を電気分解し水素を製造・貯蔵するユニットと、FCV に高圧水素ガスを充填するディスペンサーから構成される水素ステーションである。この設備は、米国カリフォルニア州と国内埼玉県に設置され、実証段階のテストを実施している。

(つづく)

野次馬話 第51話 パロディー(3) 「赤頭巾ちゃん」

S43 卒 遠藤 照男

20年前に「誰がいばら姫を起こしたのか」というグリム童話をひっかきまわす本を手にした。この手の話が大好きで、記憶に残っている。原作をもじってニヤリとさせるには、小噺の作り方で述べた手法を使えば容易いと思う。原作者や熱心なファンには失礼になるが、ここで「赤頭巾ちゃん」をもじってみようと思う。

童話と云うのは、粗筋だけを書けば数行、悪くても半ページあれば終わってしまうことを、子供の期待する展開に忠実に情景説明や会話を最大限に交えて膨らませたお話である。(小説も然りと云うと叱られるが、少なくともポルノ小説は、唯一つの行為を、その時間を何倍にも引き延ばして滔々と描写しているに過ぎない。)と云うことで、以下粗筋を書く。人にお話になるなら、極力余肉を付けて戴きたいが、小噺として粗筋だけでも使えると思う。

例1. 狼が赤頭巾ちゃんを食べてしまおうと、襲いかかった。赤頭巾ちゃんは「私はおぼこ(未通娘)のまま死にたくない。お願い・・・」と狼に懇願し、共同生活を始めた。数ヵ月後に、通りかかった猟師が窓越しで目にしたのは、大きなお腹の狼ではなく、大きなお腹の赤頭巾ちゃんと、やつれた狼だった。

例2. 赤頭巾ちゃんは、狼の手口を端から見抜いており、騙されたふりをして家に迎えた。甘言で眠らされた狼は赤頭巾ちゃんに殺され、狼を丸呑みに出来ない赤頭巾ちゃんは細切れにして食べてしまった。窓際を通りかかった、自然保護監査官が見たのは、満腹で大きなお腹になった赤頭巾ちゃんだった。

例3. お母さんに云われてお婆さんの世話に、と云うのは口実で、赤頭巾ちゃんは時々無心に行っていた。森で出会った狼が先回りしてお婆さんの家に行き、お婆さんを丸のみして食べてしまったが、金蔓の御婆さんを奪われて怒った赤頭巾ちゃんは、寝ている狼を叩き起こして、おばあさんの財布だけは吐き出させた。

お判りと思うが、赤頭巾ちゃんに狼のずる賢く凶暴な性格を乗り移らせ、スベタにするとうなるという変形例である

1. 日本の家電が負け組になった本当のワケ

Tech-On!

<http://techon.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20120615/223297/>

日本の家電が再び力を取り戻し、グローバルで一步先んじるために、新興国にはまだまだできない新しい製品がもたらす文化を背景とした新しい用途開発を推し進めるときがきていると思っています。今までにない新しい生活を提供する製品作りを推し進めていく好位置に日本は今いるのだと思います。

2. 鴻海がシャープにスピードを求めるワケ

EMS 通信

Tech-On!

<http://techon.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20120629/225892/?P=1>

「すり合わせの時間を十分にとらなければ、提携が完璧な旋律を奏することはできない。保守的な日本というパートナーを前に、一貫してスピードを追求してきた郭氏にも、今回ばかりは根気強さが必要だ」。「シャープ及び同社の日本の株主に対して、フォックスコンと台湾の善意を十分に理解してもらって初めて、韓国に立ち向かえるということを、郭氏は学ぶ必要がある」

3. 日本半導体・敗戦から復興へ

JBPress

雑誌のせいになされた日本半導体の凋落

SoC へ舵を切ったのは実は間違っていなかった

<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/35558>

日本半導体は、その攻略方法を大きく間違えた。SoC とはニッチの集合体であり、最先端のプロセス技術を強化したところで、どうにかなるものではない。世界の各地に足を運び、感性を研ぎ澄ませて人びとの生活をよく観察し、市場は何を期待しているのかを発見しなければならなかった。そして、その発見に基づいてシステムをアーキテクトすることが SoC ビジネスの要諦だった。エルピーダメモリは倒産（会社更生法の適用を申請）したが、ルネサスは（幸運にも）その手前で踏みとどまった。この先生き残れるか、成長できるかは、第一にルネサスが自己決定能力を持つことにかかっている。その上で、SoC で成功したいならば、正しい攻略方法を強化すべきである。

4. 失敗しない中国ビジネス作法

日経ビジネス online

“日本製”というだけでは売れない

現地の実情を直視し、販売戦略の再考を

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/opinion/20120625/233775/?P=1>

一方で、日本メーカーの製品は売れていない。なぜか。答えは至って簡単だ。中国メーカーや韓国メーカーの製品に比べて価格が高いからである。

5. 「こんな製品を開発します」では投資してもらえない

Tech-On!

企業にとって技術は手段であって目的ではない

竹内 健

<http://techon.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20120702/226192/?P=1>

技術とビジネスモデルの連携がなくして、収益を上げることは難しいのです。「産業界のコメ」といったように、重要な製品だから、投資を受けられて当然という時代ではありません。エルピーダメモリが倒産し、Micron に買収されたことがその象徴でしょう。そもそも、技術や製品は、企業が収益を上げるための手段であり、目的ではありません。もう一度、ビジネスの原点に立ち戻り、技術開発と同時にビジネスモデルを再構築することが求められているのです。

6. 韓国の日本の部材への依存度は増しているのか

国際貿易投資研

～対日赤字を大きく相殺する対中黒字～

<http://www.itl.or.jp/column003.htm>

液晶テレビなどの最終製品では韓国が優位にあるものの、組み込まれる高付加価値な材料・部品は日本が供給しているため、家電製品の売上利益が一方的に韓国に流れるわけではない。日本と韓国の家電の製造プロセスにおいては、現時点では補完関係が強化されている。

7. 韓国政府も「グル」 日本の先端技術が堂々と盗まれていく

経済の死角

現代ビジネス

<http://gendai.ismedia.jp/articles/-/32878>

最先端の製品は、素材や部品メーカーの高度な技術力が必要です。極端に言えば、その技術が日本にあって、韓国ではなかなか育たない。彼らは、ようやくそこに気づいた。これからは、もっと露骨な日本人技術者の採用が増えると思います。

8. シリコンバレーが見た日本のベンチャーは実は“元気”

ゾンビを撃退し、女性を登用すべし

日経ビジネス online

Tech Mom の New Wave from Silicon Valley

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/world/20120625/233759/?P=1>

興味深いのが「日本の企業は、設立後の生き残り率が異常に高い」という統計だ。アメリカでは、設立後10年に生き残っている企業は2割しかないのに対し、日本では何と6割。ハイテク企業だけを見ると、生き残り率はもっと高く、7割にまで達する。いったん始めたら、頑張っでなかなかやめないのが日本のベンチャーなのだ。

9. 日本再生戦略（原案）

平成24年 第7回 国家戦略会議 平成24年7月11日

http://www.npu.go.jp/policy/policy04/archive05_13.html#haifu
議題

1. 開会
2. 報告事項
3. 日本再生戦略（原案）について
4. 閉会

配布資料

資料1?1 フロンティア分科会報告書

<http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120711/shiryo1-1.pdf>

資料1?2 フロンティア部会報告書について（概要）

<http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120711/shiryo1-2.pdf>

資料2 成長ファイナンス推進会議取りまとめ

<http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120711/shiryo2.pdf>

資料3 デフレ脱却等経済状況検討会議第一次報告

<http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120711/shiryo3.pdf>

資料4 日本再生戦略（原案）

<http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120711/shiryo4.pdf>

参考資料1 叡智のフロンティア部会報告書

http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120711/sanko_shiryo1.pdf

参考資料2 繁栄のフロンティア部会報告書

http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120711/sanko_shiryo2.pdf

参考資料3 幸福のフロンティア部会報告書

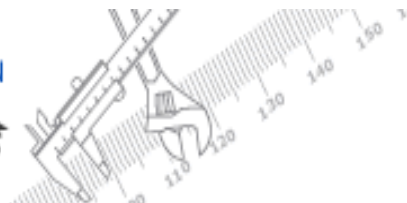
http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120711/sanko_shiryo3.pdf

参考資料4 平和のフロンティア部会報告書

http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120711/sanko_shiryo4.pdf

参考資料5 デフレ脱却等経済状況検討会議第一次報告参考資料

http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120711/sanko_shiryo5.pdf



報告

ご挨拶

梅雨明けとともに暑い日が続きますが、皆様お変わりありませんでしょうか。6月には、デザイン・コスト両レポートの提出期限があり、締め切り間近までレポートの見直し、文章の推敲を重ねたうえで、双方とも無事に期限内に提出することが出来ました。また、7月7日には大会会場で行われるエコパでの走行会、14、15日には関西合同走行会が行われました。いよいよ大会間近といった雰囲気となってまいりましたが、メンバー一同いっそう気を引き締め、最後のつめを行っていききたいと思います。

デザイン・コストレポート

デザインレポートは、どのような車両を目指してどのような設計を行ったのかをA4用紙8枚にまとめるものです。今年度の車両は、昨年度の車両ほどの真新しさはありませんが、新たな試みとして、シミュレーションに加えて理論と現実のギャップを埋めるためのデータ分析に力を入れることで、例年以上の内容になったと考えております。

また、コストレポートは、車両全体のコストを計上するレポートであり、審査基準はいかに安く車両を作れたかということだけでなく、製作方法や組み付けの手順の正確性も重視されるため、時間



1000 ページを超える
コストレポート

をかけて丁寧に作成しなくてはなりません。他チームと比べメンバー数の少ない当チームにおいて、コストレポートの作成は文字通りの総力を結集する必要があります。チーム一丸となつての作業の末、コストレポートは22日の午後に完成し、夕方には無事提出を完了することができました。

テスト走行

エコパ走行会や関西合同走行会は、大会コースでのセッティングを煮詰め

る事が出来ると同時に，他大学と車両のスピードを比較できるといった意味でも，非常に重要な走行会となります．現時点では，エコパ走行会で全体の2番手，関西合同走行会では全体でトップのタイムを出すことができ，車両の熟成を実感しております．しかし，ここから大会までに車両の戦闘力をどこまで伸ばせるかが，本番での結果に結び付くのは言うまでもありません．気を抜かず，車両の開発を進めてまいりたいと思います．



大会本番とほぼ同様の状況での合同走行会